

トビイロウンカの密度と水稻「ヒノヒカリ」の減収との関係							
〔要約〕 9月末のトビイロウンカ第2世代成虫の1株当たり虫数から水稻の減収率が推定できる。							
生産環境研究所・病虫害部・普通作物病虫害研究室					連絡先	092-924-2938	
部会名	農 産	専門	作物虫害	対象	稲類	分類	研究

〔背景・ねらい〕

従来、トビイロウンカの被害解析は坪枯れの発生を基準として行われており、坪枯れ部位が100%減収する密度が要防除水準として設定されている。しかし、坪枯れがない場合にも本種による吸汁害で減収することが予測される。そこで、本種の第3世代において発生密度と減収の程度を明らかにし、防除要否判定の資料とする。

〔成果の内容・特徴〕

①秋季にトビイロウンカ第3世代の成幼虫がイネに寄生した場合、精玄米重（ Y ：g/株）と本種の成虫数（ X ：頭/株）との間には $Y = 24.2 - 0.57X$, $r = 0.72$ ($p < 0.005$) の関係があり成幼虫数の増加に応じて減収する（図1）。

②①の関係式から、本種の密度が X_i （頭/株）のとき減収率 Z_i （%）は次式により予測できるので、本種の防除を効率的に実施できる。

$$Z_i = 100 \times 0.57 X_i / 24.2 = 2.36 X_i$$

〔成果の活用面・留意点〕

- ①トビイロウンカ第3世代の防除上の参考資料として防除基準に掲載し活用する。
- ②飛来量が多く第3世代の増殖が顕著な場合には従来の要防除水準である「第3世代の中・老齢幼虫と成虫の合計値が1株当たり10頭」で防除を行う。
- ③本試験は少発生条件下での試験であり、大発生の場合の適用については未検討である。

[具体的データ]

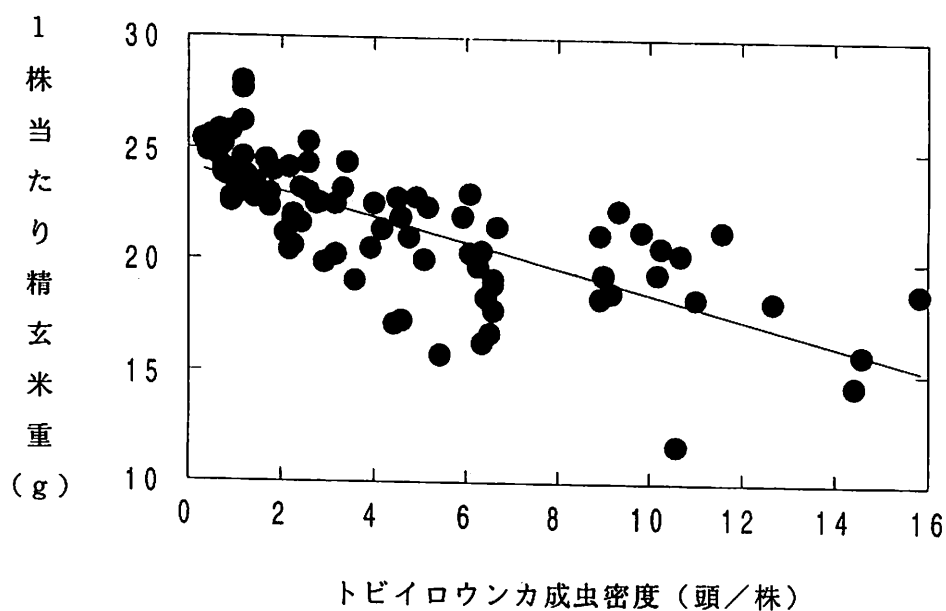


図1 トビイロウンカ第3世代成虫密度と精玄米重との関係 (平成5年)

表1 トビイロウンカ第3世代成虫密度と減収率との関係
(平成5年)

トビイロウンカ成虫密度 (頭/株)	減収率 (%)
2	4.7
4	9.4
6	14.2
8	18.9

[その他]

研究課題名：トビイロウンカ要防除水準の精度向上

予算区分：経常

研究期間：平成5年度 (平成2～5年)

研究担当者：嶽本弘之・中村利宣

発表論文等：平成5年度生産環境研究所病害虫部普通作物病害虫関係試験成績概要書